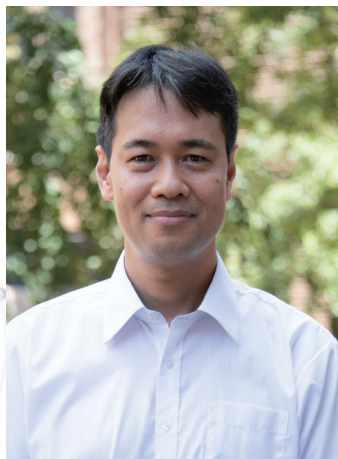


ヒト iPS 細胞を用いた 食と健康寿命の ジェンダード・イノベーション



我が国は世界一の超高齢社会であり、健康寿命の延伸が喫緊の課題である。骨格筋は人体最大の運動器であり、身体活動に加えエネルギー代謝においても重要な役割を担っている。加齢に伴う筋量・筋力の低下はサルコペニアと呼ばれ、高齢者の QOL 低下、要支援・要介護状態の重要な要因であることから、骨格筋老化を理解することが重要である。一方、骨格筋老化の過程やその制御機構は不明な点が多く、とくにヒトでの理解は乏しい。また、女性は男性と比較して一般的に長寿命であることが知られている。これらの背景から、ヒト骨格筋老化の理解、さらには骨格筋老化の性差の理解のため、我々はヒト骨格筋モデルを用いた研究を試みた。本セミナーでは、ヒト iPS 細胞を用いた骨格筋老化モデルの構築、本モデルで得られたヒト骨格筋老化の制御機構を中心に紹介する。

清水 誠（生活科学部 食物栄養学科 准教授）

岡山県立大学栄養学科卒業（管理栄養士）、姫路工業大学大学院生命科学専攻修了（理学博士）。

日本大学医学部助手、テキサス大学博士研究員を経て、2010 年より東京大学大学院農学生命科学研究科にて特任助教、助教、特任准教授を歴任。

2023 年よりお茶の水女子大学基幹研究院准教授（ヒューマンライフサイエンス研究所兼務）。

骨格筋恒常性の解明、機能性食品成分への展開を目的とし、分子栄養学手法を用いた研究に従事。

日時：2026年 9月16日(水)
9:30-10:30

対象：本学の学生・教職員

※お茶大のメールアドレスをお持ちの方

開催方式：オンライン方式
(Zoom ミーティング)

要申込



締切 9月15日(火)
12:00 まで